

平成 19 年度上半期
第 2 回「M-1 グランプリ」報告書



“小さな気づき”から“大きな成果”まで、日々の業務を行う中で
実践した取組みの成果報告です。

平成 19 年 10 月

浜田市総合調整室

1. 「M-1 グランプリ」とは

市民へ質の高い行政サービスを提供していくためには、職員が前向きにやる気（Motivation）を持って業務に取り組むことが不可欠です。同時に積極的に業務に取り組み成果をあげた職場（職員）を評価することが重要であり、評価を通じた組織全体の活性化（やる気の相乗効果）をはかることが重要です。

このため、浜田市では、平成 18 年 1 月から“小さな気づき”から“大きな成果”まで、日々の業務を行う中で職員が実践した取組みの成果を募集し、優秀なものについては、市長（Mayer）が職場を表彰する「M-1 グランプリ」を展開しています。

*事業の名称について

職員のやる気（Motivation）を高め、市長（Mayer）が職場を表彰するという事業趣旨から、それぞれの頭文字「M」をとり、「M-1 グランプリ」という名称に決定しました。

第 1 回「M-1 グランプリ」については以下 URL 参照

<http://www.city.hamada.shimane.jp/gaiyou/kaikaku/m-1/m-11.htm>

1

2. 第2回「M-1グランプリ」の実施について

第2回「M-1グランプリ」は、平成19年上半期に取り組んだ業務等の成果を対象に、「職場単位」で庁内募集を行いました。

応募のあった成果報告(4課5件)について、市民サービスへの寄与度・事務改善への貢献度・先進性・効率性等を、庁内委員により総合的に審査し、最も優れた成果をあげた以下の取組みに対し「M-1グランプリ(最優秀賞)」を授与しました。

第2回「M-1グランプリ(最優秀賞)」

「どぶろくの里づくり」(弥栄支所産業課)



取組概要) 中国地方初のどぶろく特区に認定された「ふるさと弥栄どぶろく特区」では、「おいしい空気、おいしい水、おいしい米、そしておいしい人」という地域の個性を活かして「どぶろくの里」づくりによるまちおこしに取り組んでいる。

成 果) 都市と農村の交流促進、新たな雇用と需要の創出、特産品の開発

講 評) 地域住民全体を巻き込んで、地域活性化をおこなった独自性・創造性の高い取組みである。

新たな雇用や需要の創出にも貢献しており、また中国地方初となる「どぶろく特区」の活用により、「浜田市弥栄町」を広く全国発信している。

都市部との交流や新たな地域特産品開発による経済効果など、今後の広がりも期待される。

地域経済が元気になる取組みであり、このような取組みを全市にも積極的に広げていきたい。

3. 第2回「M-1 グランプリ」、成果報告一覧

【1】「声かけ運動実施中」

(地域政策課)

【2】「市民と協働!!子育て情報誌作製」

(子育て支援課)

【3】「どぶろくの里づくり」

(弥栄支所産業課)

【4】「申告受付システム導入で残業減少、住民サービスも向上」

(税務課)

【5】「思い込みを振り払え!当初賦課事務の効率化(固定資産税)」

(税務課)

※【番号】は届出順

【受付番号 1】

担当部課	企画財政部 地域政策課
タイトル	「声かけ運動実施中」
取組概要	<p>地域政策課では、平成16年度から全庁的に実施された「職員の声かけ運動」の一環として、朝礼時に所属職員全員（臨時職員、国際交流員等も含む）であいさつの唱和を続けている。</p> <p>また、今年の5月からは3名の国際交流員の母国語（英語、中国語、韓国語）によるあいさつの唱和を取り入れている。</p>
成 果	接遇の向上、国際理解の推進
成果詳細	<p>当課には連日、町内会の役員の方が補助金申請や各種相談のため来庁されている。朝礼時にあいさつを唱和するという小さな積み重ねにより、接遇がより向上され、当課においては窓口対応に関する市民からの苦情が全く無い。</p> <p>また、外国語であいさつすることが国際交流の第一歩と考えており、国際交流部門を担当する当課においては、外国語でのあいさつの唱和は、職員の意識付けのきっかけとなっている。</p>
備考・その他	

【受付番号 2】

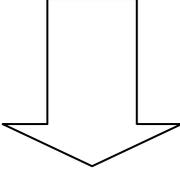
担当部課	市民福祉部 子育て支援課
タイトル	市民と協働！！ 浜田市子育て情報誌「HAMACCO」作製
取組概要	<p>妊娠、出産の手続き、相談窓口、小児科医療機関、幼稚園、保育所入所方法、遊び場、小中学校就学援助、障害児教育、母親サークル、こっころ協賛店等を掲載したP34のA4版の情報誌を1,000部作製し、市民に対して、子育て支援課窓口や子育て支援関連イベント会場等で配布している。</p> <p>この情報誌の取材・編集には、子育て中の母親サークルリーダー、副リーダーが参加した。</p>
成果	<p>「子育て情報誌」の配布による市民サービスの向上 母親の意識向上にともなう子育て環境の充実</p>
成果詳細	<ol style="list-style-type: none"> ① 子育て家庭にとって、普段の生活に役立つ内容となっているため、市民からの問い合わせや要望が多い。 ② 母親自身が、こっころ協賛店の掲載希望のとりまとめや加入の呼びかけを行ったため、10数店が新規加入し、浜田市内の協賛店は合計208店となった。 ③ 紙面の編集や印刷作業を「サークルリーダー会」と協働作業し、子育て支援の目線をあわせることが、可能になった。 ④ 母親サークルリーダー育成事業の活動成果として位置づけられ、母親自身も達成感を味わうことができ、取組みの継続が期待できる。
備考・その他	<ol style="list-style-type: none"> ① 表紙のイラスト、「HAMACCO」の命名は、しまね子育てパスポート業「こっころ」のイラストレーター佐々木恵未さん（江津市在住）の無償提供であり、イメージアップと話題性が大きくなった。 ② 表紙印刷、製本のみ印刷業者へ発注したため、印刷費が275,000円の節約となった。 ③ 7月7日開催の「紺屋町商店街たなばた祭り」イベント会場において、「サークルリーダー会」メンバー自身が配布を行った。

【受付番号 3】

担当部課	産業経済部・弥栄支所産業課
タイトル	「どぶろくの里」づくり
取組概要	<p>中国地方初のどぶろく特区に認定された「ふるさと弥栄どぶろく特区」では、「おいしい空気、おいしい水、おいしい米、そしておいしい人」という地域の個性を活かして「どぶろくの里」づくりによるまちおこしに取り組んでいる。</p> <p>① 4件のどぶろく特区事業所が、それぞれの個性を活かしながら都市住民との交流を深めている。</p> <p>② 農家レストランの利用とどぶろく販売により、1700人のまちに今までなかった新たな需要を創出し、特産品としての認知度を高めた。</p> <p>③ はまだ人材育成セミナーにより、「いにしへの農村食文化復活！弥栄どぶろく大学」を開校して、他のどぶろく特区にない魅力づくりに取り組んでいる。</p>
成果	都市と農村の交流促進、新たな雇用と需要の創出、特産品の開発
成果詳細	<p>① ふるさと体験村の「弥盛（いやしろ）」が全国どぶろく研究大会のコンテストで最優秀賞を受賞し（H19年2月）、全国に浜田市の情報を発信した。同春まつりでは、例年の約2倍の入込み客があった。また、新たに1件の事業所がどぶろく工房併設型農家レストランを開業した。どぶろく特区活性化グループが立ち上がり、自治区のイベントにも参加した。</p> <p>② 島根県全域及び広島圏域を中心とする広範な地域からどぶろくを求めて人が浜田市を訪れ、農家レストランでの飲食も含めて新たな需要を創造した。また、どぶろくという新たな特産品が地域に加わるとともに、地元女性グループ等によりどぶろくまんじゅうやどぶろく漬け等の関連商品づくりも進んでいる。</p> <p>③ 弥栄どぶろく大学では、全国最高レベルのどぶろくづくり、新種酵母の開発、どぶろくに合う農村料理のメニュー化、器や酒器の製作など、どぶろくを切り口にトータルなもてなしについて取り組んでいる。</p>
備考・その他	

【受付番号 4】

担当部課	企画財政部 税務課
タイトル	申告受付システム導入で残業減少、住民サービスも向上
取組概要	<p>税務課では、今年、市民税県民税の当初賦課事務と所得税確定申告・市民税県民税申告の受付事務を大幅に見直し、「申告受付システム」と「給報OCRシステム・課税資料イメージ管理システム」を導入しました。</p> <p>従前は、市民税県民税の当初賦課事務と税の申告の受付事務は独立した事務でしたが、システム導入により、申告開始までに入力した給与・年金等の課税資料のデータをもとに申告書を作成し、また申告書の際入力されたデータで市民税県民税の当初賦課が行えるようになったため、二つの事務が有機的に結びつき、事務処理の効率化が図れました。</p>
成 果	時間外勤務が約半分になり、委託料も大幅削減された。
成果詳細	<p>「経費節約」 1月～6月の市民税係員の時間外勤務（振替を除く）は、平成18年の3,895時間から2,040時間へと約半減し、職員数も11名から9名へと減になりました。また、データの入力方法を、パンチ委託からOCR化・磁気媒体化を図ったことにより、パンチ委託料（400万円弱）が節約できました。システム導入経費は、単年度で最大約806万円掛かりますが、これを上回る経費の節減効果がありました。</p> <p>「市民サービス向上」 確定申告時に、正確にかつスピーディーに申告書が作成でき、来場者の待ち時間の短縮にも成果がありました。</p> <p>「事務改善・事務時間短縮」 同時に導入した課税資料イメージ管理システムを使えば、他課の職員でも簡単に課税資料を検索できるようになりました。</p>
備考・その他	<p>「申告受付システム」と「給報OCRシステム・課税資料イメージ管理システム」の導入による市民税県民税当初賦課事務の改善と時間外勤務の短縮については、来る10月に呉市で開催される中国都市税務協会主催の税務関係職員研修会でその取組みを発表する予定になっています。</p>

<p>担当部課</p>	<p>企画財政部 税務課</p>
<p>タイトル</p>	<p>思い込みを振り払え！ 当初賦課事務の効率化(固定資産税)</p>
<p>取組概要</p>	<p>平成9年度～平成18年度の当初賦課事務</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>平成18年4月3日 課税明細書 約 25,000 通 平成18年5月16日 納税通知書 約 25,000 通 を別々に発送 ※ 「(記載内容の) 問い合わせはがき」を課税明細書に同封</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>平成19年2月～3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先進市への視察・調査 ・ 県へ問い合わせ・確認 ・ 税法の再確認 </div> <p>《改善後》 平成19年度の当初賦課事務</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>平成19年5月16日 課税明細書 } 約 25,000 通 納税通知書 } を同封して、一度に発送 ※ 「(明細書の) 問い合わせはがき」を廃止</p> </div>
<p>成果</p>	<p>① 封入作業、「問い合わせはがき」処理にかかる事務時間の大幅削減。 ② 節約した事務時間を重要案件へ分配。 ③ 郵送経費の節約。</p>
<p>成果詳細</p>	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>《事務量削減総時間》 約 1,000 時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 《重要案件》 固定資産基盤事業への事務時間の分配に成功 ○ 郵送経費の削減にも効果。(約 122,000 円の削減効果) </div> <p>【内訳】</p> <p>〔課税明細書発送に要する時間〕 H18 1,202 時間 ⇒ H19 0 時間 (マイナス 1,202 時間)</p> <p>〔納税通知書発送に要する時間〕 H18 805 時間 ⇒ H19 1,377 時間 (プラス 572 時間)</p> <p>〔「問い合わせはがき」処理に要する時間〕 H18 770 時間 ⇒ H19 394 時間 (マイナス 394 時間)</p> <p>《今後の課題》 初めての試みであったこともあり、今年度は納税通知書発送の作業に大幅な時間を要した。事前に入力を全て終了させておく、単独名義と共有名義を同封しないなどの対策を講じ、より事務の効率化を図っていく予定。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>職員一人当たり マイナス 100時間</p> </div>